

平成 29 年度

「運営に関する計画自己評価」
「学校関係者評価」



大阪市立南百済小学校

平成 29 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年度から学校運営全体を通して、教職員が共通の目標である「確かな学力・豊かな人間性・心身ともに健康な子どもを育てる。」に取り組んでいる。

子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現に関わる「いじめへの対応」や「児童虐待への対応」については、日常的な児童観察、週毎の学年会、月毎の生活指導部会、職員会後の情報交換、学期毎の問題対策委員会、いじめアンケート、地域連絡会等を活用して早期発見及び解消に努めた。子ども相談センターや区役所子育て支援室等関係諸機関とできるだけタイムラグを作らず連携した。今後も関係諸機関との連携をさらに密にしながら解消に努める。「自尊感情の醸成」については、年間指導計画に沿って授業実践を重ねてきた。課題があればその都度カリキュラムを見直してその充実を図るとともに、保護者への啓発を継続する。心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上に関わる「言語力や論理的思考力の育成」については、各教科の学習活動においてペアやグループ、全体での話し合い活動を進んで取り入れてきた結果、自分の思いや考えを筋道立て述べる力が身に付いた。話型を例示するなど発達段階に応じた支援を行い、自分の思いや考えを筋道立てて相手に分かりやすく伝えることができるよう指導を継続していく。「自主学習習慣の確立」については、適切な教材を準備しつつ課題を明確にした結果、ほとんどの児童が習慣化した。今後も家庭学習が習慣化するように指導を継続しつつ、学習内容を定着させるための反復練習の大切さなど習慣化する意義を家庭に啓発し続ける。「理数教育の充実」については、観察、実験、飼育、栽培などの体験的な学習を充実しつつ、授業の I C T 化を積極的に進めてきた。今後は I C T の研修会を充実させ、タブレット端末などを授業で効果的に活用する。健康・体力の保持増進に関わる「健康的な生活習慣の確立」については、手洗い・うがいの習慣化を目指してさまざまな取り組みを進めた結果、手洗い・うがいの実施率が上昇した。今後も予防という視点を大切にしながら、さらなる習慣化を目指す。「体力向上への支援」については、体育科授業や運動週間の準備運動に前屈などの柔軟性を高める運動を意識的に取り入れた結果、長座体前屈の記録に伸びが見られた。5年生を対象にした全国体力調査においても、良い傾向が見られた。今後も柔軟性を高める取組、投力向上に向けての取組を継続しながら、児童の運動・スポーツへの興味・関心を高めていく。「食育」については、各種の指導やたよりを充実させ、朝食喫食の重要性を知らせてきた結果、児童の意識が高まった。各種たより等で継続して朝食喫食が大切な根拠等を明確に保護者に伝え、朝食への意識をさらに高めていく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ① 平成 29 年度～平成 32 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。

(本校 平成 28 年度 90.5%)

- ② 平成 33 年度の小学校経年調査・校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を 75% にする。

(本校 平成 28 年度 62.9%)

- ③ 平成 33 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を 90% 以上にする。

(本校 平成 28 年度 89.6%)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ④ 平成 29 年度～32 年度の小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を平成 28 年度より増加させる。

(本校 平成 28 年度 71.8%)

- ⑤ 平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達と話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を平成 28 年度より増加させる。

(本校 平成 28 年度 76.5%)

- ⑥ 課題である 50m 走の記録を、平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、平成 28 年度より、0.2 ポイント向上させる。

(本校 平成 28 年度 男子 9.89 秒 女子 9.61 秒)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。（本校 平成 28 年度 90.5%）
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。（本校 平成 28 年度 89.6%）
- 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 平成 29 年度末の小学校学力経年調査・校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を前年度より向上させる。（本校 平成 28 年度 62.9%）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度の 102.7 より向上させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 54%以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント減少させる。
(本校 平成 28 年度 3 年…11.1%、4 年…1.5%、5 年…12.1%)
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 75%以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
(本校 平成 28 年度 3 年…54.0%、4 年…71.2%、5 年…68.9%)
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。
(本校 平成 28 年度 76.5%)
- 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走の平均の記録を、前年度より 0.1 ポイント向上させる。
(本校 平成 28 年度 男子 9.89 秒 女子 9.61 秒)

学校園の年度目標

- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。（本校 平成 28 年度 71.8%）

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 学校で認知したいじめを 100%解消した。解消した割合を 95%以上にするという目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。
- 平成 29 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答えた児童の割合は 97.8%を超えた。90%以上にするという目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。
- 本年度の校内調査における暴力行為を複数回行う加害児童数は 0 であった。目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。
- 平成 29 年度末の校内調査における新たに不登校になる児童の割合は 1.0% であった。前年度の 0.5% を 0.5 ポイント下回り目標を達成することはできなかつたので、校内委員会を活性化したり、関係諸機関との連携を密にしたりするなどして取組を充実する。

学校園の年度目標

- 平成 29 年度末の経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合は 75.6% であった。平成 28 年度末の経年調査結果 62.9% より向上させるという目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点は、106.7 であった。前年度の 102.7 を 4.0 ポイント上回ったので、個に応じた指導や話し合い活動を充実するなど、本年度の取組を継続して進める。

○平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 54%以下の児童を同一の母集団で比較すると、現 4 年生は 2.9%、現 6 年生は 6.9% 減少した。現 5 年生は前年度の 1.5% を維持した。2 つの学年で前年度より 0.5 ポイント減少させるという目標を達成することができたので、来年度も個に応じたきめ細やかな指導を継続して進める。

（本校 平成 28 年度 3 年…11.1%、4 年…1.5%、5 年…12.1%）

（本校 平成 29 年度 4 年…8.2%、5 年…1.5%、6 年…5.2%）

○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 75%以上の児童を同一の母集団で比較すると、現 4 年生は 13.2%、現 6 年生は 13.9% 増加したが、5 年生は 8.1% 減少した。現 4 年生と 6 年生は前年度を大きく上回ったが、現 5 年生は大きく下回ったので、個に応じたきめ細やかな指導をさらに進める。

（本校 平成 28 年度 3 年…54.0%、4 年…71.2%、5 年…68.9%）

（本校 平成 29 年度 4 年…67.2%、5 年…63.1%、6 年…82.8%）

○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合は 76.9% で、前年度より 0.4% 増加した。目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。

（本校 平成 28 年度 76.5%）

○ 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走の平均の記録は男子が 9.18 秒、女子が 9.50 秒であった。前年度を男子は 0.71 ポイント、女子は 0.11 ポイント上回った。前年度より 0.1 ポイント向上させるという目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。

（本校 平成 28 年度 男子 9.89 秒 女子 9.61 秒）

○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答した児童の割合は 78.0% で前年度より 6.2% 増加した。目標を達成することができたので、本年度の取組を継続して進める。

（本校 平成 28 年度 71.8%）

大阪市立南百済小学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。（本校 平成 28 年度 90.5%）</p> <p>○平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90% 以上にする。（本校 平成 28 年度 89.6%）</p> <p>○平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>○平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成 29 年度末の小学校経年調査・校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を前年度より向上させる。（本校 平成 28 年度 62.9%）</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 施策名 安全で安心できる学校 教育環境の実現】 学校が認知したいじめについて、全職員で対応や解決策について話し合い、解消に向けて対応している割合を95%以上にする。	A
指標 学期毎にいじめアンケートを実施して解消率が95%以上になるように取り組む。	
取組内容②【施策2 施策名 道徳心・社会性の育成】 自尊感情を高めるため、教材を効果的に活用して実践する。	A
指標 学期毎にアンケート調査を行って実態を把握し、必要に応じて効果的な教材を準備する。	
取組内容③【施策1 施策名 安全で安心できる学校 教育環境の実現】 強調月間を学期毎に設け、「学校のきまり・規則を守っていますか」の質問に、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を学期毎に増加させる。	A
指標 学期毎のアンケートと小学校学力経年調査を実施して実態を把握し、その数値が高まっているかを確認する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①いじめアンケートや日常の様子などからいじめの早期発見につとめることができた。また、いじめにつながる言動や行動はしないよう日々、学級で指導した。さらに、職員会議後の気になる子どもの交流会、生活指導部会、問題対策員会等を通じて、全教職員で児童の実態把握に努め早期に対応する体制ができていた。</p> <p>②自尊感情を高められるよう、道徳教材を効果的に活用するよう努めた。また、日々の生活の中で自尊感情を高められるよう、様々な取組や指導を行った。その結果から、経年調査の「自分には良いところがある」の項目で最初は62.9%であったのが最終経年調査では75.6%に評価を上げることができた。</p> <p>③「学校のきまり・規則を守っていますか」のアンケートを取ったところ、「守れている・ほとんど守れている」という回答が97.8%を超える、全体的に高かった。しかし、全体的に守れているつもりでも、「廊下や階段を走らず正しく歩く」の項目で「守れている・ほとんど守れている」と答える児童が78.8%と下がった。そのため、「廊下や階段を走らず正しく歩く」強調週間を設け、同じ項目の最終評価を88.8%に上げることができた。</p>	
来年度に向け改善点	
<p>①継続して、指導していく必要があるとともに、職員全体で常に情報の共有を行い、職員間だけではなく、保護者や関係諸機関等の連携も密にしておく必要がある。</p> <p>②児童が自尊感情を高められるよう、今後も継続して教材研究につとめる。また、学校での指導だけではなく、家庭への協力や呼びかけも行う必要がある。さらに、自尊感情の低い児童への効果的な指導のあり方についても考える必要がある。</p> <p>③守っていないきまりの項目で評価も低い事柄について、強調月間を設け、児童の意識を高め、守っていない項目の向上をはかる必要がある。</p>	

大阪市立南百済小学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標(小・中学校)	
○平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度の 102.7 より向上させる。	
○平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 54% 以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント減少させる。	
（本校 平成 28 年度 3 年…11.1%、4 年…1.5%、5 年…12.1%）	
○平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 75% 以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。	
（本校 平成 28 年度 3 年…54.0%、4 年…71.2%、5 年…68.9%）	
○平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話しあう活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。	
（本校 平成 28 年度 76.5%）	
○平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走の平均の記録を、前年度より 0.1 ポイント向上させる。	
（本校 平成 28 年度 男子 9.89 秒 女子 9.61 秒）	
学校の年度目標	
○平成 29 年度の小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。	
（本校 平成 28 年度 71.8%）	

A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 算数科において、習熟度別・少人数指導などの個に応じた指導を充実させる。		
指標 算数科において、習熟度別・少人数指導など個に応じた指導を年間指導計画の95%以上行う。		A
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 話型を例示して、自分の考えを筋道立てて相手にわかりやすく伝えることができるよう指導する。		B
指標 国語科と算数科の各単元において、ペアやグループでの活動を1回以上行う。		
取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育科の走の運動に重点を置いて取り組むとともに、かけ足やなわとび週間等各種の運動強調週間をきっかけにして、体育に親しもうとする態度を育成する。		A
指標 体育科の準備運動や体ほぐしの運動の中に、週1回以上走の運動を取り入れる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
①算数科においてほぼ全単元で習熟度別・少人数指導を行い、指導の充実を図ることができた。また、個に応じた指導を工夫することで意欲的に学ぶ児童が増えた。 ②ペアやグループでの対話は、授業内で取り組めている。その結果自分の考えを伝えることができるようになってきた。 ③週に1回以上、走の運動を取り入れるようにしたので、体育に親しもうとする態度が育った。かけ足やなわとび週間等の運動強調週間をきっかけに、意欲的に取り組むことができた。		
来年度に向け改善点		
①継続して実施していく。 ②筋道立てて相手に伝えることを引き続き指導する。話型を意識して、特に話す力については、学年ごとに目標を定め、指導していくなどの手立てを考える。 ③児童がより意欲的に取り組めるように、様々なかけ足カードやなわとびカードを準備・作成し配布できるようにする。		

平成 29 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立南百済小学校 学校協議会

1 総括についての評価

視点「子供が安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」に関わるほとんどの目標において、成果が上がっていたので安心した。規律を順守しようとする姿勢や自尊感情が育まれているのは、職員が一体となって取り組んだ成果である。今後もいじめや不登校児童への対応をきめ細かく行ってほしい。視点「心豊かに力強く生き抜き未来を切り開くための学力・体力の向上」については、重点的に取り組んだ目標においてよい傾向が見られたので安心した。個に応じた指導を充実させたり、ペアやグループの話し合い活動を活性化させたりするなどして、個々の長所を伸ばす取組を進めてほしい。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

- ①平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。（本校 平成 28 年度 90.5%）
- ②平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90% 以上にする。（本校 平成 28 年度 89.6%）
- ③平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ④平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。
- ⑤平成 29 年度末の小学校学力経年調査・校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を前年度より向上させる。（本校 平成 28 年度 62.9%）

- ①教職員の協働によって、すべてのいじめ事案が解消されていることはすばらしい。来年度以降も解消率 100% を目指して取り組んでほしい。
- ②授業やさまざまな行事を参観しているが、児童は非常に落ち着いている。授業規律がしつかり身についている。教員が I T 機器を活用しながら授業を工夫しているのもその要因になっている。
- ③多少、小競り合いはあるようだが、特定の児童が継続して暴力行為に至ることはないので安心した。
- ④昨年度の割合をやや上回ったが、学校、諸機関、地域の関係者が連携しながらフォローしていることを聞いて安心した。継続して取り組んでほしい。
- ⑤10% 以上向上したのは、教職員が日々取り組んできた成果である。今後もしっかりとほめて自信を持たせながら、児童の自尊感情を育んでほしい。

年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

①平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度の 102.7 より向上させる。

②平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 54% 以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント減少させる。

(本校 平成 28 年度 3 年…11.1%、4 年…1.5%、5 年…12.1%)

③平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 75% 以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。

(本校 平成 28 年度 3 年…54.0%、4 年…71.2%、5 年…68.9%)

④平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。

(本校 平成 28 年度 76.5%)

⑤平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走の平均の記録を、前年度より 0.1 ポイント向上させる。

(本校 平成 28 年度 男子 9.89 秒 女子 9.61 秒)

⑥平成 29 年度の小学校学力経年調査における「算数の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。(本校 平成 28 年度 71.8%)

①前年度の 102.7 を 4.0 ポイント向上したのはすばらしい。個に応じた指導や話し合い活動を充実するなど、本年度の取組を継続して進めてほしい。

②2 つの学年において前年度より大きく減少したことがすばらしい。個に応じたきめ細やかな指導を継続して進めてほしい。

③2 つの学年において前年度より大きく増加したことがすばらしい。個に応じたきめ細やかな指導を継続して進めてほしい。

④肯定的に回答する児童（生徒）の割合がやや増加したのはすばらしい。本年度の取組を継続して進めてほしい。

⑤男女共に前年の記録を大きく上回ったのはすばらしい。特に男子の伸びが顕著であったので、本年度の取組を継続して進めてほしい。

⑥肯定的に回答した児童の割合が大幅に増加したのはすばらしい。本年度の取組を継続して進めてほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

○高学年が範を示しながら下級生をリードすることができてるので、このような状況が継続されるよう引き続き指導に当たってほしい。

○児童の S.O.S を素早くキャッチできる体制を今後も維持してほしい。

○今後も指導を工夫して自尊感情を育み、児童一人ひとりにとって居心地がよい学校を目指してほしい。

○さまざまな取組や啓発によって朝食喫食の重要性への児童の意識は高まっているが、喫食しない児童が数名いるのが気にかかる。広島の例のような子ども食堂の運営を南百済地域でも考えているところである。

○小学校学力経年調査において立派な数字が残っていた。児童に伸びが見られるのがうれしい。